

参考提案の暫定版ケアパス

地域包括ケアパス

課題	課題実現のために自分も家族、友人・知人も皆で楽しく元気で暮らせる（家族、友人・知人が認知症になったら、してもらえらることと同じ）	認知症により常に介護などの支援が必要（身体は丈夫なとき）	緊急増悪のとき 大災害のとき
課題実現のために自分も家族、友人・知人も、認知症がないときに互いにしておきたいこと。	課題実現のために自分も家族、友人・知人も皆で楽しく元気で暮らせる（家族、友人・知人が認知症になったら、してもらえらることと同じ）	認知症により常に介護などの支援が必要（身体は丈夫なとき）	緊急増悪のとき 大災害のとき
○基本 - 自分のことは自分で促す - 励ましを多く持ち、日頃から関わる時間を減らさず、日頃から何でも話しかける - 考えを押しつけない - おかしなと思ったら専門医の受診を促す ○元気な身体 - 健康診断受検を促す - 運動・病氣・食事に気をつける - ラジオ体操に誘う - 大切にしている - 感謝の気持ちをちゃんと言う - 散歩や買い物などの外出に誘い閉じこもりを防ぐ - 伴侶の面親を思い遣る - 交流 - 必要ときに連絡する ○外出し顔なじみを増やす - ときどき一緒にいるお茶、外食や旅行等を結ぶ - 地域活動に誘う - 約束を忘れないように伝える - 誕生日や記念日にはお祝いする - 身だしなみを整える - 気分転換を促す - 楽しいことを楽しむ - 明るく笑う - 趣味を持つ - 家事を分担する - 昔話を聞く - 自由でいる ○仕事や活動 - できる仕事を続ける - 認知症の基礎知識や対応方法を学んでおく - エンディングノート - 重い認知症になったらどきの代理人を決めておく	○基本 - 自分のことは自分で促す - 励ましを多く持ち、日頃から関わる時間を減らさず、日頃から何でも話しかける - 考えを押しつけない - おかしなと思ったら専門医の受診を促す ○元気な身体 - 健康診断受検を促す - 運動・病氣・食事に気をつける - ラジオ体操に誘う - 大切にしている - 感謝の気持ちをちゃんと言う - 散歩や買い物などの外出に誘い閉じこもりを防ぐ - 伴侶の面親を思い遣る - 交流 - 必要ときに連絡する ○外出し顔なじみを増やす - ときどき一緒にいるお茶、外食や旅行等を結ぶ - 地域活動に誘う - 約束を忘れないように伝える - 誕生日や記念日にはお祝いする - 身だしなみを整える - 気分転換を促す - 楽しいことを楽しむ - 明るく笑う - 趣味を持つ - 家事を分担する - 昔話を聞く - 自由でいる ○仕事や活動 - できる仕事を続ける - 認知症の基礎知識や対応方法を学んでおく - エンディングノート - 重い認知症になったらどきの代理人を決めておく	○基本 - 自分でできることを手伝える - 励ましを多く持ち、日頃から関わる時間を減らさず、日頃から何でも話しかける - 考えを押しつけない - 症状が進んだと思ったら専門医の受診を促す ○元気な身体 - 健康診断受検を促す - 運動・病氣・食事に気をつける - ラジオ体操に誘う - 大切にしている - 感謝の気持ちをちゃんと言う - 散歩や買い物などの外出に誘い閉じこもりを防ぐ - 伴侶の面親を思い遣る - 交流 - 必要ときに連絡する ○外出し顔なじみを増やす - ときどき一緒にいるお茶、外食や旅行等を結ぶ - 地域活動に誘う - 約束を忘れないように伝える - 誕生日や記念日にはお祝いする - 身だしなみを整える - 気分転換を促す - 楽しいことを楽しむ - 明るく笑う - 趣味を持つ - 家事を分担する - 昔話を聞く - 自由でいる ○仕事や活動 - できる活動を続ける	○基本 - 自分でできることを手伝える - 励ましを多く持ち、日頃から関わる時間を減らさず、日頃から何でも話しかける - 考えを押しつけない - 症状が進んだと思ったら専門医の受診を促す ○元気な身体 - 健康診断受検を促す - 運動・病氣・食事に気をつける - ラジオ体操に誘う - 大切にしている - 感謝の気持ちをちゃんと言う - 散歩や買い物などの外出に誘い閉じこもりを防ぐ - 伴侶の面親を思い遣る - 交流 - 必要ときに連絡する ○外出し顔なじみを増やす - ときどき一緒にいるお茶、外食や旅行等を結ぶ - 地域活動に誘う - 約束を忘れないように伝える - 誕生日や記念日にはお祝いする - 身だしなみを整える - 気分転換を促す - 楽しいことを楽しむ - 明るく笑う - 趣味を持つ - 家事を分担する - 昔話を聞く - 自由でいる ○仕事や活動 - できる活動を続ける
家族との互恵・人間関係	自分と家族が共に行動すること		○基本 - 自分でできることを手伝える - 励ましを多く持ち、日頃から関わる時間を減らさず、日頃から何でも話しかける - 考えを押しつけない - 症状が進んだと思ったら専門医の受診を促す ○元気な身体 - 健康診断受検を促す - 運動・病氣・食事に気をつける - ラジオ体操に誘う - 大切にしている - 感謝の気持ちをちゃんと言う - 散歩や買い物などの外出に誘い閉じこもりを防ぐ - 伴侶の面親を思い遣る - 交流 - 必要ときに連絡する ○外出し顔なじみを増やす - ときどき一緒にいるお茶、外食や旅行等を結ぶ - 地域活動に誘う - 約束を忘れないように伝える - 誕生日や記念日にはお祝いする - 身だしなみを整える - 気分転換を促す - 楽しいことを楽しむ - 明るく笑う - 趣味を持つ - 家事を分担する - 昔話を聞く - 自由でいる ○仕事や活動 - できる活動を続ける

る機会や場所	健康や認知症の教室を行う。 ・各種教室などに場所を提供する。 ・ランジオ体操を行う、指導者を増やす ○人間関係 ・地域活動を増やす（特に男性が参加しやすい活動、多世代が参加しやすい活動）。 ・地域活動はおおげさではなく負担が少ないようにする（役員など一部の人の負担が集中しないような工夫をする）。 ・習い事や趣味のサークルを増やす（回覧板や掲示板で広報）。 ・（古い歌を聴く会、ウォークキングの会、以後、将棋、グラントゴルフ、花作り、ヨガなど）参加者を増やす。 ・気軽に世間話や愚痴が言える音の井戸端会議のような居場所をつくる（いつでも誰でも行ける場所、行政っぽくないもの＝「集い場」）。 ・「集い場」では認知症の人も働く。 ・介護している家族同士が話せる場所をつくる。 ・介護体験を話したり来たりできる場所をつくる。 ・散歩マップをつくる（出会うた人に挨拶し話し、「街角道の駅（産物の販売、お茶飲み、学生・生徒のボランティア）」 ○仕事や活動 ・認知症の人ができる仕事、ボランティア活動などを興す（認知症の人が仕事・活動できる機会や場所）。
地域資源	◎商店、商工会、会社など（人が動けば経済も活性化する） ・地域資源会議に参加し「認知症になっても大丈夫な地域づくり」のために、それぞれができることを分担する（日頃からなにかができるか話し合っておく） ・行事や健康教室、認知症教室、ラジオ体操、習い事や趣味のサークル活動などへの場所の機会や提供 ・「集い場」作りへの協力 ・散歩マップの配置・配布の協力 ・「街角道の駅」の場所を住民と一緒に検討 ○仕事や活動 ・認知症の人ができる仕事、ボランティア活動などを興す（認知症の人が仕事・活動できる機会や場所）。
専門機関	◎社協、病院、老健、介護サービス事業所など ・地域資源会議に参加し「認知症になっても大丈夫な地域づくり」のために、それぞれができることを分担する（日頃からなにかができるか話し合っておく） ・認知症学習会に講師を派遣する。場所を提供する。 ・認知症の人が働ける機会や場所を作る ・行事や健康教室、認知症教室、ラジオ体操、習い事や趣味のサークル活動などへの場所の機会や提供 ・「集い場」の情報を出す。 ・散歩マップの配置・配布の協力 ・認知症の人ができる仕事、ボランティア活動などを興す（認知症の人が仕事・活動できる機会や場所） ことができるよう支援する。
行政	◎地域包括支援センター、保健センター、民政・児童委員など ・「認知症になっても大丈夫な地域作り」のために地域資源会議を開催する ・健康診断を実施する ・認知症学習会（サポーター等）を実施する。講師を派遣する。場所を提供する。 ・認知症学習会の実施が進むよう専門機関や地域資源に協力を依頼する。 ・各種教室に指導者を派遣する。包括支援センターを周知する。 ・認知症の相談窓口として会場や場所を作る。 ・各種教室などに会場を提供する。 ・ランジオ体操の指導者を養成する。 ・「集い場」の情報を出す。 ・散歩マップの配置・配布の協力 ・認知症の人ができる仕事、ボランティア活動などを興す（認知症の人が仕事・活動できる機会や場所） ことができるよう支援する。 ○本人・家族・専門職などの参加によりエンディングノートを作り普及する。

◎認知症の基礎知識と対応方法の例

認知症の兆候や進行がわかる

認知症になっても、できる限りやりたいことを言える、聞いてもらえる。

認知症になってもできることがあまる。

認知症になっても特技を活かせる。

認知症が疑われるときは変化に気付くことが出来る。

認知症になったかどうかどうも落ち着いて聞ける。

同じ話しの繰り返しでも落ち着いて聞ける。

いろいろなことができなくなる。

約束を忘れたら教えてもらえる。

自分にあつた助けの内容を、ちゃんと言うことができる。

※ 元気なときの日頃の活動で、かつ、個人・家族・地域住民の役割に限定して座談会で意見を出す。→容態の進行にあわせた内容は、作成委員会で作成する。

※ 認知症がない元気なときにどのように活動・生活をすることが重要であり、それが認知症の進行により変化していくという考え方にする。

→ 上手に支えてもらうには、支えた経験と実績が必要。支えられ側も一方的に受け身の存在ではなく「自分の周りに人を集める力を持った存在である」。

→ 「認知症が疑われる段階」からのバスだと、「症状の進行にあわせて、どのような公的サービスが用意されているか」を市民に周知する機能に特化したバスになってしまふ。

→ 「市民がどのように支えるか（元気なうちから認知症の人とその家族を地域で支えるために、それぞれがどうしておけばよいのか、認知症の人とそ家族にどのようにつくことができるか、という視点）」を描くことによって、「地域包括ケア型」に発展させる。

※ 住民座談会に可能な限り多数の一般市民の参加を得るための手法を尽くす。→担ってくれる市民を作る。参加者の中からリーダー格の人を発見していく。

※ 「ケアバス」という名称は市民に分かりづらい。→ 住民座談会の意見から拾って川西市独自の名称を考案し命名する。→市民のものとしてのケアバスになる。

※ ケアバス作成委員会としては、ケアバス作成後もPDCA（市民・介護支援専門員等の意見）で、少なくとも介護保険事業計画期間ごとにローリングを掛けて見直ししていく、ことを明示する。

※ 「推進員が包括ごとに常勤専従で配置されているからできる」という構図を見せるのも全国で推進員が活動しやすい環境の発信材料になる。

※ 推進員は戦略を練り、市民の皆さんが自ら活動していくように働きかける。

※ この地域包括型ケアバスができれば、地域に「楽しい・期待されて活躍する場」がたくさんできて、「忙しいからデイなど行っている暇がない」という自立市民ができる。

※ この地域包括型ケアバスができれば、要介護状態になっても、作成されるケアプランのサービス・サポート内容、種別が劇的に豊かなものになる。

※ この地域包括型ケアバスは、市全体のケアバスと個人ごとのケアバスを一体化したものである。

1. 川西市行政が優先順位を付ける。
すぐにもできること。時間を掛けてできること。篠崎さんのイラスト力を活かしたい。（名古屋スタイル）
社協をどうするか？